

太田 萌絵

OTA Moe



行蛇大徐化

紙本着彩、岩絵具

## 化徐大蛇行

私は生きることが辛いと感じる時、動物たちを取材しに行く。「生命力」というテーマとの出会いは、動物達に宿る力を表現できないかと考えていたときだ。以降、私は「生命力の象徴」として動物を描いてきた。「生命力の象徴」を表現することで、自身が生きていく中で自分の中に何が成長しているのかを考えている。

《化徐大蛇行》では、大蛇が体を動かしながら脱皮をし、新たに生まれ変わっていく姿を色や質感で表現した。蛇を辞書で調べると、再生や永遠といった言葉が並ぶ。そして、世界に存在する神話や伝承の中で「生命力の象徴」とされてきた。また、脱皮をし古い姿を捨て、新しい姿に生まれ変わり成長していくことから、変化や再生の象徴ともされてきた。この事を知り、「生命力の象徴」として蛇を表現したいと考えた。

蛇が脱皮しているとき、古い皮は途中で破けることなく、体の形がそのまま残され綺麗な脱皮をすることもある。だが、この作品では、皮は疎らに綺麗には剥けない姿を描いている。これは、上手く剥けなくても、一步一步確実に進んでいるということを伝えたかった。だから、着実に成長していくという思いや願いを込めて、このように表現した。そして、「化」、「徐」、「蛇行」という文字にそのような意図を込め、作品名を「化徐大蛇行」とした。

動物達は、様々な環境で進化を遂げながら命を繋いで、現代にまで子孫を残し、今を生きている。彼らは、過酷な時代を乗り越えて「ここまで生きてきたんだな」と考えさせられる。その時、自分も頑張らなければと思えるし、今の自分は成長できているかと再確認したくなる。

私にとって作品制作は、「生きる上で必然」であると感じる。言い換えると、制作行為は、私の本能であり「生命力」と繋がるように思う。

動物たちの力強さが画面に宿ることを信じて、私は、これからも描き続けていきたい。